

開催趣旨

本年の実践真宗学研究科公開シンポジウムは、「宗教のもつ光と影」をテーマに開催いたします。

龍谷大学大学院実践真宗学研究科は、現代社会の諸課題に対応しうる宗教者を養成しています。それは現代社会の諸課題・苦悩や悲嘆に宗教は応答しうるものであるということ、すなわち現代の社会に対して「光」をもたらすものであるという立場に立つものといえます。

しかし、その一方で宗教的なものや、社会と宗教との関わりにおいては、必ずしも肯定的な面ばかりではなく、いわば「影」ともいえる側面がありました。例えば、宗教を論じるうえでは避けて通れない、カルト問題や反社会的な活動、あるいは過去の戦時下での戦争協力といったこともその一例といえます。

一方、現代の宗教者による社会貢献／社会実践についても、単に社会的評価のみを求めることや、「社会貢献」ということを無批判に用いる中で、宗教それ自体の本来の意味といったものが見えにくくなってしまいうことも問題として指摘されています。

宗教・宗教者による活動を考えるうえで、それらがもつポジティブな側面「光」ばかりではなく「影」ともいうべきネガティブな側面も踏まえ、それら両面があるということを知ることは、非常に重要なことです。今回の公開シンポジウムでは、この宗教がもつ光と影—ポジティブといえる側面と、ネガティブといえる側面—その両面性を踏まえたうえで、現代社会における宗教の意味、役割についてのディスカッションを行います。

実践真宗学研究科長 殿内 恒

公開シンポジウム 宗教のもつ光と影

提言者



【提言 1】

「社会課題に向き合う 宗教の可能性と葛藤」

しらはせ たつや

白波瀬 達也 氏

関西学院大学 人間福祉学部 教授

専門は宗教社会学、福祉社会学。主著に『宗教の社会貢献を問い直す』（2015年、ナカニシヤ出版）、『貧困と地域—あいりん地区から見る高齢化と孤立死』（2017年、中公新書）など。主にホームレス支援領域における宗教の社会活動についてフィールドワークの手法を用いながら研究をおこなってきた。



【提言 2】

「宗教とカルト、ゆらぐその境界」

うらう たかし

瓜生 崇氏

真宗大谷派玄照寺住職

大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター招聘教員

自身の経験をもとにカルト脱会支援に取り組む。著書に『なぜ人はカルトに惹かれるのか 脱会支援の現場から』（2020年）『統一教会・現役二世信者たちの声』（2025年 いずれも法蔵館）

コメンテーター



うち こうた

内手 弘太 氏

龍谷大学 文学部 准教授

専門は、真宗学とくに近代真宗思想史。論文に、「真宗本願寺派の教学と日本主義—梅原真隆を通して—」（石井公成監修、近藤俊太郎・名和達宣編『近代の仏教思想と日本主義』（法蔵館、2020年所収））などがある。

コーディネーター



なかひら りょうご

中平 了悟 氏

龍谷大学 文学部 教授

専門は真宗学、中国浄土教思想。浄土真宗本願寺派の布教使養成にも携わる。宗教者の社会実践にも関心を向けている。論文に「浄土真宗の実践—その射程とそれを立ちあがらせるものについて」（『真宗学』137号、2018年）等。

〈お知らせ〉龍谷大学大学院実践真宗学研究科入学試験日程

実践真宗学研究科では、理論研究と実践活動を通じて、社会に貢献できる宗教者の養成を目指しています。

入試種別		出願期間 (締切日消印有効)	試験日	合格発表
春期試験	一般入試	2026年1月3日(土)～ 1月16日(金)	2026年2月22日(日)	2026年2月27日(金)
	社会人入試			

研究科についての
詳細はホームページを
ご覧ください

